和光中学校道徳通信　　*生徒会スローガン「自学豊心 ～前向き・励まし・思いやり～」*

和 ～心をつなぐ～

令和５年６月１３日
第 ２ 号

日本人としての誇り

和光中学校では、毎月「道徳の日」に、さまざまな人の生き方や社会情勢について話を聞き、自分自身の心と向き合いじっくり考える時間をもっています。

６月は、ハワイ出身のルース・ジャーマン・白石さんの日本での体験や東日本大震災の際に世界で報じられたニュースの内容を通して、私たち日本人が外国の人々の目にどのように映っているのかについて考えました。

〔※ 裏面：放送内容〕

☆ １年生 ☆

○ 今、自分たちがやっているちょっとした当たり前のことでも、とても大切で、それだけでも人を助けることができるんだとわかった。これからも日本人だからではなく、人間だからという理由で「道徳を重んじる心」をもちたい。

○ 日本の当たり前を知って、ぼくは良い国に生まれたと思います。日本人の誇りを胸に何事にも頑張りたいと思います。

○ ぼくも他人を思いやる心と正直さを大切にしてこれから生きていこうと思いました。

☆ ２年生 ☆

○ 貴重品の落とし物などを盗んでもバレないのに、落とした人に返したいという気持ちで行動した人は、本当に「日本人の誇り」だと思います。ぼくも落とし物があれば交番に届けます。

○ 世界では当たり前ではないことが、日本では当たり前になっていることがわかった。

○ 東日本大震災のときも、震災で苦しいはずなのに、金庫を取らずに持ち主に返そうとしていて、すごいと思った。

○ 自分がどんな状況だろうと返そうと思って行動できる日本人はやっぱりすごいと思った。

☆ ３年生 ☆

○ 実は一度だけ財布を拾ったことがあります。その時は、お店の中だったのでお店の人に渡しました。それがふつうだと思っていたけれど、他の国から見たらすごいことなんだと今日知りました。これからも親切なことを続けていきたいです。

○ 日本の人がどれだけ相手のことを考えて行動しているかがわかった。

○ 自分一人の浅はかな行動で日本人全員のイメージが悪くならないように注意したいです。

★保護者の皆様へ

お子様と意見の交流をして、ぜひ感想などを気軽にお寄せください。

切り取り線

保護者通信欄（お子様を通じて担任へお渡しください。）

『世界一受けたい授業』など、数々のテレビ番組に出演しているハワイ出身の「ルース・ジャーマン・白石さん」は、30 年間の日本での生活を通して感じたことを、自身が書いた本の中で次のように紹介しています。

ある朝、私は会社の事務所が入っているビルのエレベーターの近くで、一枚の張り紙を見つけました。その張り紙には「現金の落とし物があります。心当たりのある方は管理人室まで」と書かれていました。「現金」というのがどれくらいの金額なのかは分かりません。とにかく前の日の晩、だれかがエレベーターのボタンを押そうとしてポケットから手を出したときに、お金がこぼれ落ちたのでしょう。そして、次にその場にやってきた人は、周囲に人影も監視カメラもなかったのに、落ちていたお金を自分のものにしないでビルの管理人さんへ届けたのです。また、お金を預かった管理人さんも、黙って自分のものにすることができたのに、そうはしませんでした。張り紙を作って落とし主を探そうとしたのです。さらには、「現金の落とし物」という張り紙を見た人たちも、「これは私が落としたものです。」などと、嘘の申し出をしていないのです。日本だと当たり前のことかもしれませんが、海外ではほとんどあり得ないことです。日本人の『道徳を重んじる心（互いを大切に思い、尊敬し、感謝の気持ちをもって生きる心）』は世界に誇るべきものだと思います。

次に、あの「東日本大震災」が起こった際に、多くの海外メディアがテレビや新聞のニュースで取り上げ、その結果、日本人のことが広く世界に知れ渡ることになったことについて紹介します。

2011 年３月 11 日に起こった東日本大震災から６か月ほどが経った８月のある日、イギリスの新聞社が報じた記事のタイトルは、「正直な日本人たちが、地震のがれきの中から見つけた５万ポンド（日本円にして「約２３億円」）を津波被災者へ返す」でした。

〔持ち主へ返された金庫〕

また、アメリカでも同じくこのニュースが流れました。5,700 個もの金庫が警察に届けられたのです。金庫は専門家の手によってカギが開けられ、中に入っていた銀行の預金通帳や土地の権利書などから持ち主の身元がわかりました。その結果、23 億円もの現金が回収され、そのうち 22 億７千万円が無事持ち主に返されました。残りの金庫についても警察が持ち主を捜し続けました。

欧米では、金庫がそのまま持ち主に返されるということはまず考えられません。だからこそ、欧米のメディアがこのようにニュースとして取り上げたのです。このことは、日本人が日本人としての誇りを胸に、震災から必死で立ち直ろうとする姿を世界に示す結果となりました。

☆ 保護者の方からの感想 ☆　　５月 「オンリーワンの存在」

- 辛くて苦しいことがあっても、長い人生、生きていれば辛いことばっかりじゃなく楽しい未来があるので、新垣さんのように「オンリーワンの存在」として生きていってほしいです。
- 歌という心の支えに出会い、自分の声を誉めてくれる人に出会えたことで自分の存在価値を再認識することができたのだと思います。誰にでも唯一無二の素質があり、それを見つけることができれば強く生きることができるのではないでしょうか。新垣勉さんの声に興味をもち、子どもとネットでさとうきび畑を聞きました。本当に素敵な歌声でした。
- 死ぬことと、やりたいことが出来なくなること以外は全てかすり傷のようなものだと思い、強く生きていってほしいと子どもには願っています。
- 人生、辛いときもあれば苦しくてもがく時期もあると思います。そこで前を向いて進んで行くためには、まず、自分のことが好きで認めてあげることが大切になると思います。自分の良いところを知り、認め、好きになることを忘れず、他の人の気持ちも大切にしていこう。「No.1」より「オンリーワン」の存在として命を大切に生きていこうね。貴重なお時間をありがとうございました。

（紙面の都合上、感想の一部のみ掲載しています。ご了承ください。）